

寸心先生日記抄

○明治三十五年

〔見返し裏に左の語を書す〕

昔慈明在汾陽時與大愚瑯琊等六七人結伴參究河東苦寒衆人憚之明獨通宵不睡自責曰古人刻苦光明必盛大我又何人生無益干時死不知于人於理有何益即引錐自刺其股

寸陰 寸璧

寸心居士

一月一日 委々隨々無功にして五年を経過す。

昨夜眠る能はず。七時頃晨起冷拭。

去月廿五日より洗心庵にあり。老働未歸來。

午前、午後、夜靜坐。

桑原歸り來らず。九時大寢。桑原九時過歸る。

一月二日 今曉市内失火あり。七時晨起冷拭。胃の工

合あし。午前運動の爲霧除をなし、糞を理す。

午後打坐。

夜三升君酒と香物を携へ來る。十時入寢。

一月三日 七時頃晨起冷拭、午前打坐、午後打坐、夜打

坐、十時入寢。

一月四日 七時半晨起冷拭。午前打坐。午後入湯。石

川來り談話。

夜打坐。十時入寢。

一月五日 昨夜よく眠る能はず。

午前七時晨起冷拭。八時頃桑原と共に歸家。新聞をよみ年賀狀をか。

午後四時より市中の年賀廻をなし、直に時習寮にゆく。七時半頃より茶話會を開く。不相變福引等。

一月六日 六時晨起打坐。七時半箴規朗讀。九時石川

君と交代して歸京す。歸家後讀書。

一月七日—八日 [略]

一月九日 六時起き打坐冷拭。出校。

午後ミス・サタン及びデ・ハビルランドを訪ひハ氏より Anglo-saxon Superstitions をかる。ハ氏古き

パイブルを送る。

今日大に打失せり。明日は奮發すべし。

〔附記〕寸心先生日記抄は前年度を以て掲載を打切りました。都合により掲載澳れの明治三十五年の分を本號及び次號に追録することにしました。

閑思閑讀閑食を嚴禁せよ。

一月十日 六時起き打坐冷拭。出校。〔中略〕
今日は閑食閑思せり。

一月十一日 午前、午後倫理問題につき妄想のみ凝らす。午後四時頃寄宿舎にゆく。午後六時より第二回大茶話會を開く、十一時頃終る。寄宿舎に宿す。

一月十二日 〔略〕

一月十三日 午前六時晨起打坐冷拭。午後出校。寄宿舎を集めて話す。終りてハピランドと雪戰をなすと云ふ。〔中略〕

今日は又閑食閑思。

一月十四日 今日は少しく遅く起き坐するを得ず。出校。午後主幹會議あり五時過歸宅。精神界にて清澤氏の文をよみ感ずる所あり。
我念の爲に誤る事數度。

一月十五日 五時に起き打坐冷拭。午前出校。午後は雀見の件につき暮まで學校にあり。今日も失策數回。

一月十六日 今朝も遅く起きて打坐冷拭をなさず。午後歸宅。三時頃ウォールファルトを訪ひ、クノー・フヒスセルのカントを持ち歸る。談話一時間餘。

閑食數回。

一月十七日 五時起き打坐冷拭。出校。午後雀見の處置につき會議。我心幾度か過てり。上田君の母堂來りフアウストとビーベルを持ち來ちる。

一月十八日 遅く起き常例にそむく。午前沐浴。午後森内君を訪ひそれより寄宿舎につき宿す。夜寮生と河井の傳をよむ。

夜一時間程打坐。

一月十九日 午前十一時佐野と交りて歸京。午後中目君を訪ふて贅談、大失策。夜フアウストをよむ。

自己が専門外の書も精讀せんとする事大に難し。寮生五十名餘雪をふんで卯辰山に登る。

一月二十日 〔略〕

一月二十一日 午前六時晨起・打坐・冷拭・運動。

午後主幹會議あり。夜カントをよむ。

一月二十二日 午前五時頃晨起・打坐・冷拭・運動。午後フアウスト會を始む。夜カントをよむ。

一月二十三日—二十四日 〔略〕

一月二十五日 午前遅れ起き入湯。午前カントをよむ。午後森内君を訪ひ、それより大野屋につき加能同志會に臨み、寄宿舎にゆきて宿す。寄宿生遅刻多し。

一月二十六日 午前七時晨起。九時寮生を集めて訓戒。

午後一時頃吉川君と代りて歸宅。

妻下女を叱す。實に非道の行。併しかれの如き戒めても其甲斐なし。笑ふてすますの外なし。

一月二十七日 此日學校に雪中行軍あり。午前八時頃より出發。才水の上に到り午後二時歸校。夜武部來る。

一月二十八日 [略]

一月二十九日 午前出校。午後フアウストを讀む。

夜三々塾の茶話會あり。北條、田部、河合、杉森、石川及余と堀と出席。一時頃歸宅。

一月三十日—三十一日 [略]

二月一日 午前在宅。種々考ふる所あり。午後入浴。

三時學校にゆく。

寄宿舎に宿す。下野なる者門鑑を持たずして遅刻。

二月二日 午前フアウストをよむ。十一時石川君と代りて歸宅。

午後田部君の宅にて近松をよむ。來會者藤井、林、中目、森内、長尾と余なり。夜打坐。

二月三日 六時起き打坐・冷拭・運動。午後ストイックをよむ。夜赤木、吉崎へ手紙をかく。

二月四日 六時に起き打坐冷拭。午後主幹會議あり。

余は此日大に卑劣心を起す。慚愧々々。

二月五日 六時起き打坐冷拭運動。午後フアウストをよむ。

二月六日 六時半起き打坐冷拭。午後會議あり。夜打坐。

二月七日 六時半起き打坐冷拭。午後、夜、考を書す。

二月八日 午前六時起き打坐運動。午前考を書す。此

日茨木君の送別會あり、成巽閣に於て。

寄宿舎にゆきて宿す。普讀室にて講話會をひらく。十一時頃終る。

二月九日 午前十時習寮にありて本をよむ。十一時佐野

君と代りて歸宅。

二月十日 午前六時起き打坐冷拭。午後ヘーゲルをよむ。

夜寄宿生十名餘を招く。

二月十一日 午前八時起き九時より紀元節の式に列す。右終りて寄宿舎に於て箴規則讀式あり。

根保來訪。

午後五時より東田に於て茶話會あり、茨木君の送別會を兼ねぬ。

二月十二日 午後例によりフアウストをよむ。それよ

り森内君と共にウォールフアルトを訪ふ。
夜北條先生を訪ふ。余が志の在る所を述ぶ。先生も之に賛成す。

二月十三日 午後入浴。五時より玉泉樓に於て茨木君の送別會をなす。

二月十四日 此日石川君病氣につき余代りて寄宿會に宿し、若松賤子女史の「小公子」をよむ。

二月十五日 午前歸宅。午後田部、森内二君來訪。
ゴルドン傳をよむ。

夜時習寮室長來會。

二月十六日 午前小泉來る。午後好天氣なるにより散歩し、茨木君を訪ふ。

ウエルボルン來訪。三竹君來訪。

夜打坐。

二月十七日 午前六時起。坐・拭・動。八時出校。午後在宅。昨夜うば來る。

余は不決斷なる故大に失策せり。

余はつまらぬ事に憤怒せり。

二月十八日 午前六時起。坐・拭。八時出校。少しく遅刻。午後主幹會議あり。夜小川來る。

Faust をよみて十一時頃入寢。

寸心先生日記抄

二月十九日 六時起。坐・拭・運。九時出校。午後フ

アウスト會あり。

藤岡より水滸傳送り來る。

藤岡に小兒生れ死したりと云ふ。

二月二十日 六時起。坐・拭・動。九時出校。午後學科長會議あり。

山來來る。

オルデンベルヒの書到着。

二月二十一日 七時起。午後デ・ハビラントを訪ふ。

「後世の最大遺物」と云ふ書をうる。パンヤンは無學にして大文學者なりと云ふ、面白し。

歸途三々塾による。

二月二十二日 午前石川君來る。午後田部、森内二君來り共に才水の邊に散歩す。

夜カントを考ふ。

ゴルドン傳をよみ終る。

二月二十三日 午前カントを考ふ。午後寄宿會にゆく。

小公子をよみ終る。

アトラをよむ。

陶侃朝夕木屑を運ぶと云ふをよみて自ら願む。

二月二十四日 午前六時半起。箴規朗讀。

小高の宣誓式。

此日炎木君出發。

學問は畢竟 His の爲なり。His が第一等の事なり。

His なき學問は無用なり。

急いで書物よむべからず。

二月二十七日 午前七時起。午後、デ・ハビランド來る。

メリー・ライオンの傳を買ふ。

夜田部君を訪ふ。同感の所多きも、君と余は心の根

底に於て違ふ所あり。ムーアの詩集をかる。

二月二十八日 午後はメリー・ライオンの傳をよみて

暮しつ。後は講義の草稿を作る。

三月一日 午前草稿を作り、ボールの手紙をよむ。

午後時習寮にゆく。三部會に臨む。夜寮生を集めて

ゴルドン傳を話す。

坪内の英文學史をよむ。

三月二日 午前寄宿舎にあり英文學史をよむ。佐野と

代りて歸る。

午後森内君の家に會し水滸傳をよむ。

夜フアウストをよむ。

三月三日 午前七時起。拭。八時出校。十二時歸。

堀君より「みちのあと」をかりよみ始む。

三月四日 [略]

三月五日 午後フアウストをよむ。それより懲罰委員

會議あり。

三月六日 午後獨逸語學會にてフアウストを講ず。そ

れより中俣氏を訪ひ書譜を見る。

夜懲次郎方の件の爲何事もできず。

三月七日 午後サルトル・レザータスの會にゆく。

暮に安達來る。

三月八日 午前勉學。午後公園を散歩しそれより寄宿

舎に到る。夜小茶話會あり。ノンセンスなり。

アルノードの詩集をよむ。

三月九日 午前サルターをよみアルノードをよむ。吉

村と代りて歸宅。得能來る。

三月十日 午前七時起。八時出校。長屋君の名にて大

黒書店へ送金。午後石川來る。

此日姉來る。子の愛と義理の問題解決。

三月十一日 [略]

三月十二日 六時起。坐。八時出校。

午後フアウスト會あり。それより才水河邊を散歩す。

心地よし。夜來る。

三月十三日 午前七時起。九時出校。午後カーライル會あり。(長屋君の宅に於て)

三月十五日 午後時習寮に宿す。杉田君來訪。

寄宿生間に賄方につき不平あり。

三月十六日 午前自宅にて水滸傳の會を催す。夜林君來訪。

三月十七日 午前出校。午後出校。夜行李を整ふ。

三月十八日 此日午後四時家を出て京都に向つて出立す。此夜京都東寺の側山本君の宅に宿す。山本君夫人に始めて面會。山本不在。

三月十九日 此日午前得田氏に逢ひ、第三を見、戸田君の家に宿す。眞島來訪。中山氏に始めて逢ふ。

三月二十日 此日午前五時京都出發。岡山に至り白田舎に宿す。第六を見る。服部氏に逢ふ。

三月二十一日 午前孤兒院を巡覽。後樂園を見る。晝頃岡山出發。神戸に至り得能君方に宿す。神戸中學を見る。

三月二十二日 午前神戸にて關西學院を見る。それより直に神戸出發。奈良に至り宿す。春日神社に詣づ。桑原氏達磨を送らる。

三月二十三日 午前桑原氏と大佛に至り、直に奈良出

寸心先生日記抄

立。名古屋に至り幼年校を一覽し、直に名古屋を出發し、米原に宿す。

三月二十四日 午前六時米原出發歸家。途に山本に逢ふ。

三月二十五日 午前學校にゆき試験問題を作る。夜北條先生を訪ひ山本の件を話す。

三月二十六日 午前論理の試験あり。午後主幹會議あり。夜杉嶽君と北條先生方にて寄宿舎の事を決定す。

三月二十七日 午前出校。試験問題をす。田部君を訪ひ夜深くまで話す。

三月二十九日 午前點付をなす。午後より時習寮にゆく。リンコルの傳などをよむ。

三月三十日 午前寄宿生をあつめて話す所あり。午後點驗をなす。

三月三十一日 午前試験の番をなす。夜三々塾に於て茶話會を開く。杉森、中目、田部等來る。一時散會。

四月一日 此日午後より洗心庵に入る。

四月四日 洗心庵にありて倦怠を極む。此日午後やめ

歸る。

余自ら志の薄弱なるを歎く。

須田來る。

夜學校へ注文の書を記す。野田火事。

四月五日 入湯。午前九時主幹會議あり、行軍の件に

つきてなり。午後少しく散歩。ファウストを読む。

下女歸る。

夜洗心庵にゆき三竹、石川と話して終る。

四月六日 [略]

四月七日 午前點付をなす。午後森内君の家に遊ぶ。

夜太陽をよむ。

赤井叔母來る。

四月八日 [略]

四月九日 午前九時出校。午後ファウストをよむ。夜

プライドレルをよむ。

四月十日 午前九時出校。午後在宅讀書。プライドレ

ルをよむ。勉學。

四月十一日 [略]

四月十三日 午前寄宿舎にあり。午後八波君の宅にて

水滸傳をよむ。

四月十四日 此日午前八時より栗津に向つて行軍す。

小松より下車、演習をなして栗津にゆく。今井、中

野、磯田などと統監部に宿す。(かみや)

四月十五日 午前六時出發。美川に汽車にて午後五時

頭歸宅。

四月十六日 [略]

四月十七日 午前九時出校。午後ミス・サタンを訪ひ

赤き紐をかる。

夜鹽田來り面白き精神上の談話をなす。

四月十八日 午前學校紀念日の式あり。午後在宅。夜

全校の大茶話會あり。

四月十九日 午前文を考へ書をよむ。

午後三竹君を訪ひ、それより時習寮にゆく。

四月二十日——二十五日 [略]

四月二十六日 午前情意的説明を草す。午後佛教青年

會にゆき情意的説明を話す。

夜寄宿舎に講話會をひらき、後に小茶話會を催す。

四月二十七日 午前プライドレルをよむ。午後林君の

宅に會して水滸傳の會を催す。

夜トルストイの話をよむ。

四月二十九日 午前八時出校。此日校長歸校。主幹會

議あり。

四月三十日 午前九時出校。午後招魂祭につきファウ

ストをよます。

夜校長自宅に各主幹を招き轉任の話あり。(未完)